

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 2階		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日が楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、天気の良い日は公園にお弁当を持っていき昼食を取ったりし、ご入居者も笑顔が絶えないように力を入れています。週に一度訪問診療を受けているのでその際に主治医へ相談をしています。その方の出来る事を見極め、日常生活の中でのリハビリを行ない残存機能を活かしイキイキとした生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近くに野球場などの公共施設や公園があり、自治会活動の盛んな地域に位置している。開設当初からの理念「その人らしく」は職員に浸透している。また母体法人の医療との連携があり健康管理も適切に行われている。ホームでは内部研修を多く行っている。特に認知症の勉強は毎月開催し、バリテーション療法など取り入れ利用者の思いの把握に努めており、また排泄や食事の自立支援など職員の意識向上に繋がっている。自治会の旅行に利用者に参加したり、消防訓練に参加し地域の一人として交流するなど地域と密着し信頼を得ている。家族会は家族が自由に意見を表出する場となっており、普段では気付かない意見を運営や支援の場に取り入れている。職員全員で検討し実践しているため、家族からも信頼が厚い。開設10年目を迎え、利用者本位の支援と地域密着型の事業所としての役割を事業所だけでなく職員も理解しているホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年11月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の始まりに理念を唱和し、職員全体が理念に沿った同じサービスが提供できるように再確認をしています。	開設時に作成したホーム理念と各ユニット毎の理念を事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。職員は理念の勉強会を開き、職員が援助についてキーワードを出し意見をまとめて、援助方針を作成した。方針を基に理念を再確認し、利用者本位の介護の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる夏祭り、清掃活動、消防訓練、旅行などかかさず参加し、又毎年敬老会には余興など出し合い親睦を深めています。	事業所は自治会に加入しており、地域で行われる夏祭りや清掃活動、消防訓練に参加し、実際に職員は近隣で発生した火災の消火活動に協力している。また、利用者に職員が付き添い地域の旅行に参加している。日頃から近所の住民とあいさつを交わすなど、顔なじみの関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか、話し合い地域の方々のニーズに合わせた健康教室などを開催し協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。	2ヶ月に一度規程のメンバーで開催している。参加者からの提案で利用者の普段の様子が見えるようホーム内で会議を行っている。利用者の状況報告や行事報告、意見交換等を行い、洗濯の仕方や排泄支援についての要望があり、職員等は意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会との会議、地域活動を通じて協力できるように積極的に取り組んでいます。	市の担当部署に事業所の運営で質問したり事故報告を上げたり、市主催の研修に参加するなどしている。又、介護相談員を受け入れ、利用者に喜ばれている。地域包括主催の「地域支援ネットワーク」の会議に参加するなど関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。	職員は1年かけて言葉による拘束を含めた研修を受講し、職員同士で注意し合う等拘束をしないケアの意識は出来ている。又、重要事項説明書、契約書に明記し家族へ説明している。しかし昨年の気付きであるエレベーターの一部施錠は未だ改善されていない。	利用者及び家族などにとっては自由に出入り出来ない拘束感がある。施錠は家族からの要望もあるが、利用者本位の立場で検討、工夫を重ね支援に反映することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、事業所内外の勉強会に参加し、職員の意識向上に努めています。又、虐待防止について見つめ直し、自分を振り返る時間を作り、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	より良い知識を深める為、勉強会などに参加し要望のあるご入居者には制度を活用して頂くようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に一度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度、疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほかに、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付し、意見・要望を記入できる用紙も同封しています。	玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時には意見が出しやすい雰囲気作りや2ヶ月毎に発行しているホーム便りに意見要望記入用紙を同封し聴取に努めている。ホーム便りに普段の写真を掲載したり、洗濯衣類の手入れ法など改善策を話し合い実践しており、結果を家族へ報告するなどの例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニットミーティングでご入居者の状況報告をして、それに対して意見・要望を話し合う場を設けています。	毎月ユニット会議や日々の業務の中で、職員は意見が出しやすい環境である。年1度施設長との面談もあり、現場の意見を聞く体制がある。制服の見直しや休憩室の改善等、施設長へ意見があがり現在改善に向け検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握に努め個々の特性を見直し向上心を持って働いていける様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修への参加を呼び掛けてあり、他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングが出来る様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人の生活歴などの情報を集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族の想い、困られている事や不安な事に傾聴し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明を行ない、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ、食器拭きや掃除機掛けなどを自然な形で無理が無いように、その日の体調を職員が確認しながら一緒に行なっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ行事の参加をお願いしたり、ホーム便りで本人の様子をお伝えしています。又、面会に来られた時はお互いに情報交換しながらより良い支援が出来るように協力関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの方との面会はもちろん、ご本人の希望があれば電話や挨拶のハガキが出せるように支援し、関係の継続に努めています。	職員は、利用者の生活歴を本人や家族から聞くことで支援内容を検討している。情報は職員間で共有している。こだわりの商店での買い物や外食を楽しんだり、出前を取ったりしている。知人や家族の訪問や外出、外泊など継続支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置に気を配り、おやつ時間、体操、レクリエーション等ご入居者同士が気軽に集まって関わりあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設などに移られた方は、スタッフ間で情報を共有して継続的に支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人からお話を聞いたりして、これまでの生活を大切にケアプランの検討を行なっています。	職員は利用者と個別に会話をを行い、意向や思いを共感して接するようにしている。会話の内容や気付きは個人記録に記入し職員間で情報を共有している。発語困難な場合は、これまでの生活歴や家族からの情報を基に検討し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からの聞き取りや担当ケアマネージャー等から話を聞くなどして、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、情報を共有する事はもちろん、ミーティングでも一人一人の状態について話し合い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は家族の意見を伺い出来るだけ意向に添うように作成しています。又、ミーティング時や日頃の業務の中でも検討を行なっています。	利用開始前に本人や家族に意向を聞き、プランを作成し、2週間以内に確認をしている。担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスや勉強会を開き、職員全員でプランを見直している。ケアプランできてシートでサービス内容を確認し、家族の意見を面会時や電話で聞き、本人本位のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るようにスタッフ申し送りノートで情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やその時の要望に応じて、受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合も移送サービスを行なう場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じてDrとの連絡を取り合い信頼関係を築いています。	通院は原則として家族が同行しており、かかりつけ医への受診や薬の内容報告は受診ノートで共有している。母体医療機関へも受診報告用紙を提出しており、緊急時等にも対応できる体制である。週1回の歯科往診や口腔ケア、看護師による健康チェック等も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をマニュアルの作成をしています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合いをし見直しを行なっています。	看取りに関する指針が文書化されており、契約時に利用者と家族に説明を行っている。状況により事業所は医師を含め家族の意向を聞き、希望に沿うよう話し合っている。昨年度は看取りの事例があった。職員は看取りに関する勉強会を開き、心の準備をし、チーム全体で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルの作成、勉強会の実施定期的に訓練を受けて技術を習得しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。	避難訓練は消防署立会いのもと、年2回のうち1回は夜間想定を実施している。毎回訓練内容を変え、レベルの高い訓練と消防署の評価を得ている。又地域の消防訓練に参加し実際に火事の時応援に駆けつけた事がある。災害対策は法人一括した備蓄、総合防災委員会を通じて情報は共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重する為、職員が自分振り返りの勉強会に参加したり、丁寧な言葉遣いを徹底しています。又、申し送りなど、ご入居者に関わることはご入居者の居ない場所で行なっています。	利用者の人権と尊重は理念に掲げている。職員は守秘義務を周知し利用者への態度や言葉使い、声かけは、職員同士で注意しあい尊厳を損なわない支援に努めている。本年より入浴介助の同性介助を取り入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にお好きな物を取り入れるようにし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	各ユニット毎に利用者の嗜好をもとに献立を作成している。職員は介助をしながら、一緒に食事や会話をし、みんなで食事を楽しんでいる。季節感のある献立や誕生日などイベント献立を企画している。弁当を作って外出したり、利用者が一緒におやつ作りをするなど食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。ご自分で口腔ケアが困難な場合は職員が支援しています。又、提携している歯科受診や口腔ケアサービスも使用しています。義歯の方は定期的に入れ歯の洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。	排泄チェック表を作成し、個別の排泄パターンを職員は把握している。利用者の様子や時間をみて誘導し、トイレでの座位排泄支援を行っている。利用者の自覚も高まり、布パンツ利用への軽減事例が多く見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が自由に休める様な形を取っています。疲労感が見られる時やその方の生活習慣に応じて休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解出来るように、薬情報書をいつまで見れるようにファイルに綴じて、申し送りを行ない、職員間で周知できるように努めています。又、症状の変化があればすぐに主治医、かかりつけ医に相談を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事などはして頂き、食器拭き・洗濯干し・掃除などの作業提供を行なっています。他階に行き、話しの合う方とコミュニケーションが取れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、駐車場に出てみんなで日光浴をしています。又、ご家族に依頼してお墓参りや自宅へお連れして頂いています。	天候や体調にあわせて、ホーム周辺の散歩やドライブを一人ひとりと行っている。車椅子利用者も一緒に支援している。花見や遠出ドライブを企画し、利用者全員で定期的に外出も行われている。但し本人の希望把握や1対1での支援は行われているが、外出支援までは至っていない。	理想は日常的な外出であるが、まずは年1回でも利用者の希望の外出先への外出支援が実現できるような支援内容や目標を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金、財布を所持している方も居られます。散歩や外出時に持参しお金を使う機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が好きな時、かけたい時に掛けれるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、お花を飾ったりご入居者と共同して作成した工作物を飾ったりして環境づくりを行なっています。	居間兼食堂の採光は程よい明るさで、混乱を招くような音もない。飾り付けは各ユニット独自に季節感を表している。廊下にソファを置き、ホーム内で活動する利用者の休憩場所をつくるなど居心地よい空間作りを工夫している。職員が掃除、換気を行い健康管理に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼して写真を持って来て頂いたり、使い慣れた物や仏壇などをもって来て頂き、ご本人が安心して生活できる空間を作れるように工夫しています。	居室は利用者に合うよう使い勝手のいいベッドが置かれている。状況に応じ、布団利用や電動ベッドなども対応している。掃除は毎日午前中に行い、窓を開け換気をしている。部屋には利用者の馴染みの物や作品が飾られており、個性や生活感がある落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 3階 喜々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療、介護、福祉の連携を強化する事により、ご入居者やご家族の安心・満足へ繋げられるように支援しています。また理念に基づき、その人らしい日常生活を送れるようなケアの提供を心掛けています。スタッフもご入居者と過ごす時間を大切にしたり、ケアについて意見を出し合うなど皆で協力して、ご入居者が笑顔で楽しく、穏やかに毎日過ごせるような支援を心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に必ず理念を唱和し、理念に沿ったサービス提供を心掛けています。理念の中にある「ご入居者は人生の大先輩である」という事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・盆踊り・敬老会・ソフトボール大会・日帰り旅行や消防訓練には積極的に参加し、お手伝いをしています。また、こちらの行事では夏祭りや敬老会など地域の方々にも参加して頂き、交流の場を設けるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合い、地域の方々のニーズに合わせた健康教室等開催し、協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ったり、直接ご家族の想いや意見を毎回聞くことができ、よりきめ細やかなサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会と会議、地域活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会の中で身体拘束についても話し合い、ユニットミーティング時に職員に報告したり、みんなで話し合う機会を設け、職員全員で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	よりよい知識を深めるため、勉強会などに参加し、要望のあるご入居者には制度を活用して頂く様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に1度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度疑問や質問に対応し、理解を得て頂くよう十分な説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際に意見・要望がないか聞くようにしているほか、ご意見箱の設置や運営推進会議・家族懇親会で意見を頂く機会を作っています。また、ご家族にはホーム便りを送付し、意見・要望を記入できる用紙も同封しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を利用し、意見や要望を話し合いながら信頼関係を築けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働けるよう努めています。代表者も現場を訪れ、職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた教育計画を作成し、外部研修の呼びかけや他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び、取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームを見学して頂き、1日の生活の流れを説明して、ご本人の要望や不安に思っている事を聞くようにしています。また、少しでも多くの情報を集める体制を整えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に詳しい説明を行ない、些細な事でも不安や困っている事はないかお聞きしながら、より良い関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、ご家族の意見・要望も考慮しながら支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げている「ご入居者は人生の大先輩である」という事を毎日の生活の中で忘れず、楽しく過ごしていただけるように職員間で話し合ったり、考えながら取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご入居者への想いをしっかり受け止め、支えていくためにも定期的にホーム便りを発行し、行事への参加を呼び掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方へ電話を掛けたり、同窓会のハガキが届いた時はお伝えして、これまで築いてきた関係や習慣が途切れないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操時や10時のお茶、15時のおやつ時にもご入居者同士、関わりを深めていくようにしています。また、誕生日には皆で集まり、お誕生日会を開いてお祝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の病院や施設に移られた方に対してはお見舞いに行ったり、スタッフ間で情報交換等をして継続的なお付き合いを行なっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の想いや悩みがないか聞いたり、ご家族からの意見・質問を聞き、どのように暮らしていきたいかをより多く把握し、ケアプランを検討して、反映させています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、担当ケアマネージャーからの聞き取りで、これまでのサービス利用や生活歴の把握に努めています。また、ご本人の日常会話の中から今までの暮らし方や習慣、出来事などヒントを得られるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事は記録に残し、その方の1日の過ごし方や出来る事を把握し、その人らしい生活を送れるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望や意向を聞き、それらを反映させられる介護計画書作成に努めています。ユニットミーティング時や日々の勤務の中で意見を出し合い、検討しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているかチェック表を作成し、毎日記入しています。日々の生活の様子と共に、これまでのエピソードや名言などを具体的かつ簡潔な記述で記録に残すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やその時の要望に応じて、受診や退院時の送迎を行なうなど柔軟な対応を行なっています。提携以外の医療機関受診の場合も移送サービスを行なう場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方々にご協力頂けるよう働きかけています。消防署をはじめ、警備会社や地域の方々と連携を図り、安全な生活を送れるように支援しています。また、地域のイベント等に職員が参加する事で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外は、原則ご家族対応にて受診して頂いています。受診前後には情報交換を行ない、必要に応じて医師との連絡を取り合い、信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制にて主治医・看護師と連絡を取り合い、対応する体制が出来ています。普段より、緊急時にも対応出来るよう細やかな情報交換を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院時には医療機関への情報提供を行ない、主治医への相談やご家族の連絡を取る事により安心できる早期退院への取り組みを行なっています。また退院時にはグループホームでの受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者のご家族や医師と連携、相談をしてマニュアルを作成しています。希望に沿った支援が出来るように定期的にチームで話し合い、見直しを行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには注意を払い、説得ではなく納得して頂けるように心掛けています。また、来訪者にご入居者の個人情報が入るような所で申し送りや職員同士の打ち合わせなどしないよう徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表出が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってしまうばかりにならないように生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流が図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は帽子や上着をご本人と一緒に選び、またパジャマや洋服をスタッフと選び、日夜のリズムを大切にしています。また、月に1回の美容サービスも希望に応じて受けられるようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂で一緒に食事をし、必要な方には介助を行なっています。話が弾むご入居者同士を隣席にするなど座席の検討もこまめに行なっています。献立も毎日の変化や季節感が出るよう心掛けてバランス良い食事の提供をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量から調理方法や形態を日々考え、少しでも安全に美味しく召し上がって頂けるよう工夫しています。水分補給はトロミをつけたり、代替品(アイスクリーム、ゼリー・ポカリ等)を使用し、ご本人が好んで摂取できるようにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、セッティングや見守り、介助などご本人の状態や気分を観察し、対応しています。義歯の方は就寝前に義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、下剤の調整を行なっています。また、水分補給、食事、運動など便秘予防のための工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェックシートを付けて、ご入居者の要望に合わせた入浴をして頂いています。一人一人の入浴の好みを把握し、楽しめる様に支援しています。希望時には可能な限り応じるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や、その方の生活習慣に応じて休めるようにしています。また、日中の離床や覚醒を促し、生活にメリハリをつけ1日の生活リズムを整える事で夜間の安眠へと繋げるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には必ず職員2名で日付・名前・数量を確認しています。薬の変更時や臨時薬処方時には確実に申し送りを行ない、日誌に記録するよう徹底しています。臨時薬服用後の状態確認は密に行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の出来る事や得意分野を見つけ、そこを活かし、伸ばしていけるような関わり方を考えています。ご本人の出来る事、好きな事を活かした取り組みを心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望が聞かれた際には散歩や買物に出掛けるようにしています。外出する事で地域の方と交流したり、季節を感じたりと気分転換の機会にもなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金・財布を所持している方もおられ、散歩や買物、外出時に持参して、可能であれば支払いもご自分でして頂くなどお金を使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を使用できるようにしています。受話器もコードレスの為、居室で電話出来るようになっています。手紙が届いた際にはご本人に渡し、必要に応じ代読しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調節や周りの音・話し声等にも気を配り、ご入居者にとって居心地の良い空間づくりを心掛けています。また、花を飾ったり、季節に応じたディスプレイを取り入れるようにもしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話ができるようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や好みの物を用意して使用して頂いています。自宅にいる時と変わらないような居心地の良さを感じて頂けるように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103981		
法人名	医療法人 社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里油木 4階 悠々		
所在地	長崎県長崎市江里町7-21		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念に基づき、毎日が楽しく生活できるように、買い物がお好きな方と近隣に外出したり、天気の良い日は公園にお弁当を持っていき昼食を取ったりし、ご入居者も笑顔が絶えないように力を入れています。週に一度訪問診療を受けているのでその際に主治医へ相談をしています。その方の出来る事を見極め、日常生活の中でのリハビリを行い残存機能を活かしイキイキとした生活が送れるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に必ず理念を唱和し、その理念に沿ったサービス提供を心掛けています。ゆとりの心を持ち、ご入居者は人生の大先輩である事を常に頭に入れ、敬う心を忘れないよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事や清掃、消防訓練など積極的に参加しています。また、当館の夏祭りや敬老会などの行事の際には地域の方々にも参加していただいたり、地域資源利用と交流を兼ね、買い物や公園への散歩を行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか、話し合い地域の方々ニーズに合わせた健康教室などを開催し協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況報告を行ない、ご家族や地域の方々からの意見を聞くことにより、より良いサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや自治会との会議、地域活動、ネットワーク活動等を通じて協力できるよう積極的に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会に各ユニットから代表者が参加し、身体拘束に関しても話し合い、ユニットミーティング時に報告し意見交換することにより、周知・徹底を行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて虐待と思われる行為について事例検討し、その結果をミーティング時に報告しています。職員全員で取り組み、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の勉強会等に参加し、より知識を深め、要望のあるご入居者には制度を活用して頂くようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	年に一度のペースで重要事項説明書の説明を行っており、その都度、疑問や質問に対応し、十分な説明を行ない、理解・納得を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や家族懇親会で意見を頂ける機会を作っています。また、遠方のご家族の方の意見も聞けるようホーム便りに専用の用紙を同封し、意見や要望を頂けるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等を活用し、意見や要望を出し合っています。またそれ以外においても、職員からの意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の特性を見出し、向上心を持って働いていけるように努めています。代表者も現場を訪れ、現在の職員の状況把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修への参加を呼び掛けたり、他部署への研修を行ない、働きながらトレーニングができるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や勉強会等に積極的に参加して、良いところは学び取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学をして頂いて説明を行ない、疑問や不安、要望などをお聞きしています。ご本人に関する情報やサマリーなどを集め、信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前説明時に家族が困らている事や不安な事を確認し、出来るだけご要望に沿えるよう丁寧に説明をしながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、家族の意見・要望も取り入れ支援していくように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく中で、その人が出来る事を発掘することで、お互いが役割を持ち、助け合って過ごして頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との絆を大切にするため行事などに一緒に参加していただき共に楽しんでいただけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や家族からの情報提供により、その人の特性を把握することで、ご入居者本位の生活を提供できるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置にも気を配り、食事や体操、レクリエーションなどを通してご利用者同士が関わりを深めていけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の病院や施設へ移られた方に対してはお見舞いや面会に行くなどして、スタッフ間で情報交換を行なうことで、継続的なお付き合いを心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お1人お1人の思いや悩み・不安を傾聴したり、ご家族からのご意見・ご意向を聞き、今後どのように暮らしていくかを把握し、ご入居者本位のケアプランを検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から話を聞いたり、ご本人の日常生活での会話により今までの暮らし方、生活での出来事、経験した事などを知ることが出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事、目についた事は記録に残し、損も人の1日の過ごし方や出来る事を把握して、その人らしい生活が送れるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを開き、入居者の状況について検討し、ケアプランに反映・モニタリングでの振り返りを行なっています。また、ご家族の意向や要望に沿えるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来ているか、チェック表を作成し、毎日記入しています。統一出来るよにスタッフ申し送りノートで情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況等その時の要望に応じて通院・送迎を行ない、医療連携体制機能を活かした迅速な対応を行っています。また、他の病院受診の際も移送サービスを行ない、定期的に受診していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方々にご協力いただけるようしています。また、消防署や警備会社と連携を図り、安全に暮らして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は原則としてご家族対応となりますが、受診前後にはご家族と情報交換を行ない、必要時には医師と連絡を取り合い信頼関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とも情報を共有し、24時間体制で主治医・看護師・介護職が対応できるような体制を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と互いに情報交換を行っています。また、主治医と相談し、ご家族の方とも連絡を取り合い、グループホームの受け入れ体制を整え、早期退院が出来るよう取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたご入居者の家族や医師と連携を取り、マニュアルを作成しています。ご希望に沿った支援が出来るよう話し合いの機会を作り、定期的に見直しをしています。勉強会へ参加しスタッフ間で共有する事でスキルアップに繋げています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外における研修に各職員が参加する事や緊急時マニュアルを把握しておく事で、緊急時にも冷静な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や毎月のユニットミーティング、勉強会を通じ、初期消火・避難道具・非常時の連絡、通報、誘導など全職員が参加し、身につけるよう努めています。また、訓練時には地域の方やご家族の参加も呼びかけ、協力を得ています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある「ご入居者は人生の大先輩」を心に、言葉づかいに注意し、誇り・プライバシーにかかる場合には他入居者がいない時や聞こえない場所で話すよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の状態に応じた声掛けや対応を心掛け、意志表示が困難な方に対しては、日ごろの観察を徹底して、表情や仕草を読み取るよう、心掛け、自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に閉じこもってばかりにならないよう生活リズムが乱れない程度に声掛けし、なるべく他の方との交流を図れるようにしています。その時の気分や体調を考慮して、本人の自己決定を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理容サービスや、ご入居者の好みに合った衣類やアクセサリを身に着けていただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味見をしていただいたり、アドバイスをして頂いています。また、食後には食器拭き等を手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後に食事摂取量・水分量を記録し、水分などが不足している場合には随時声掛けを行ない、提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、提携歯科医院の訪問診療や口腔ケアサービスを利用しています。また、口腔ケアは本人に出来る範囲で行なっていただき、その後に職員による確認、仕上げを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を有効活用し、個々の排泄間隔の把握に努めています。失敗してしまっても周囲の方に気付かれないように配慮しています。ご入居者からのサインも見逃さないよう観察し、職員間でも情報共有に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行ない、便秘薬の調整を行なっています。又、水分補給、食事、運動など、工夫を行ない便秘の予防が努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	チェックシートを作成し、ご入居者の要望に合わせて入浴し、清潔保持のための声掛けを行い、入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるように、ご入居者の生活習慣・体調・気持ちを把握するとともに、環境整備に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の既往歴を把握し、処方薬について職員間で周知できるように申し送りを行っています。また、服薬時には必ず職員2名で確認をしています。すぐに確認ができるよう薬情報書もファイルに綴じています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をご本人またはご家族より聞き取り、その人の趣味や、得意なことを活かせるよう提供し、できる範囲内で楽しんでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日は、お散歩や買い物など声掛けを行い、出掛けるように心掛けています。また、季節を感じていただく為に、初詣や花見などにも出掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金・財布を所持している方もおられます。散歩や買い物・外出時に持参して、現金を使用する機会もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望により電話を掛ける援助を行っています。お手紙などもご入居者が書いたものを投函したり、近隣の郵便局まで一緒に行く等と支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やカーテンの色などにも気を配り、CDやテレビなどで音を流し、くつろいでいただいています。また、共用スペースには季節を感じていただけるよう季節に応じた装飾等を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座って会話が出来るようにしています。テレビを見たり、新聞を読んだり、広告折りをしたりと好きな事をして過ごせるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものやご本人が使い慣れたもの等をご家族と相談し、自宅から持ってきていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂場など分かりやすいように表示し、間違わないようにしています。フロア内も環境整備を行ない、事故につながらないように気を付けています。		